

『水を考える』

友部ロータリークラブ
社会奉仕委員長 磯部幸克ほか各委員

「水を考える」この平凡ともいえるテーマを見て、直観的に、簡単に考えるが、けっしてそのように、単純なものではない。

さて、国際ロータリークラブにおいても、環境・水問題等々、以前からとりあげられていることは、周知のとおりである。

昔から、木（もく）、火（か）、土（ど）、金（ごん）、水（すい）は、天地万物の根源、と言われますが、特にその中でも、水の占める価値・度合・意義等は、まことに大きいものと言わざるを得ない。水なくしては、一日たりとも生きることは不可能であり、まさに、水、水、水なのである。

過般、友部地区六戸の「六戸千年」の歌がCD化され、その中に、冒頭、「北山の不動滝音行者らの水ごうのあと偲ばるなり」や「松籟（しょうらい）のとどきくるほど松多き六戸は緑の城下町とか」の歌がでてくるのである。長い長い歴史の中でも、このように、水と緑が実に豊富であったことが、理解できるのである。

私たち友部ロータリークラブは、大自然からの恩恵による、まさに、山紫水明（さんしすいめい）の地域を、より美しく、より清くするために、「水を考える」のテーマを持つに至ったのである。

当地友部地区での水源、これは、北山（標高102m）である。全山約40ヘクタール、全山の中心部分に、北から、新池、中池、白鳥湖と並ぶように三つの湖沼がある。まさに、山紫水明、実に美しい公園である。

その周辺の樹林は、そのほとんどが落葉樹林である。落葉樹林は、水源地としては、最適とされているわけである。落葉樹林の落葉の中から湧出される水は、これこそプランクトンが多く発生するとのことであり、流れ流れて洄沼川、洄沼へと下っていく。魚介類にとってもこれほど恩恵深いものはないのである。

水は流れれば流れるほど、清澄度を増すと言われますが、北山全山の水も、大きく分けて三つに流れる。流れは全部洄沼川の本流に入る。

一つは、前述した新池、中池、白鳥湖の水が流れる地点、笠間市大田町606（車入）地点からである。これは北山全山の南側である。

もう一つは、北山東側山地の水は、笠間市南友部1480（湯山入）地点から流れ洄沼川前川に合流する。

三つ目は、北山北側の水である。それは、笠間市笠間4620（麦入）地点から流れ、佐白山からの水と合流して、南吉原地区で洄沼川本流と合流する。

水の貴重さを強調することになりますが、洄沼川の水を飲用するのは、友部地区住民のみである。笠間地区住民は、笠間市の奥地である飯田ダムの水（城里町七会地区に隣接）を飲用する。笠間市内の岩間地区は、独自性のある地区で洄沼川の水は飲用しない。地下水を水道タンクに上水して飲用している。愛宕山、難台山、館岸山の連山から

の水が豊富で、豊かな地下水となり、大清水地区にて、水道タンクに上げられるのである。

水辺地、水場等の実地検証・調査等々のチーム編成であるが、社会奉仕委員 8 名を四つの班に編成し、調査・行動に当ることになる。

- ・第 1 班は、笠間市上加賀田地区から（北関東道友部ジャンクションの近く）→国道 355 号周辺。（江田会員、黒田会員）約 3 km
- ・第 2 班は、国道 355 号周辺（穴戸新義光寺跡近く）から、笠間市矢野下水門。（石井会員、飯田会員）約 3.5 km
- ・第 3 班は、笠間市矢野下水門から、仁古田橋（笠間市安居の近く）。（仲田会員、猪狩会員）約 4.5 km
- ・第 4 班は、北山全山。（伊藤会員、矢吹会員）40 ha

各会員とも、その場、その地の現況を検証調査する。当然、環境美化・整備状況、魚類棲息状況、水質等も調査するのである。合わせて、空き塵埃等拾いも奉仕活動の一環として積極的に行うのである。

「水を考える」にあたっての、奉仕、行動、課題については、次のように考える。

地元、穴戸地区農業水利組合との連携協力が考えられる。

白鳥湖全体の安全確認（大きな目標の一つ）と稲作の出穂期に必要な（出穂水といわれる）水供給のため、毎年 8 月に、湖水全部を流し出す。そして、堤防（全長 70 m の大堤防）全体の草刈り、白鳥湖周辺の整備清掃、安全確認等を行う、その時の奉仕活動。

シルバーセンターとの連絡協力にも着目したい。シルバーセンターの北山公園管理事務所に常駐しているし、清掃活動、その他、北山公園全体の安全確認・作業等の実際の活動の方もいる。当地方最高の水源地を守るための一助にも協力できる部面があれば、力の及ぶ範囲にて協力を致したいものとする。

また、川清掃、道路清掃、花壇づくり等々にて、各地ボランティア、子供会後援会、老人会等の実際の活動への関心、関係強化を図っていくことも大切と考える。

そしてまた、小・中・高・学校教育との接点も考えてみたいとも思える。いわゆる総合的な学習等の時間を生み出し、水質浄化、環境保全、環境美化、奉仕活動等、水に関する諸問題について、教育関係へのアプローチはできないものかとも強い思いを持つものである。